



澤本 長俊 議員

保育料の無料化、中学卒業までの医療費の無料化等、県下各市町と比べてもトップレベルの子育て支援政策が進められている。そのことにより今、ようやく県内外の子育て世代の方々から「子育てするなら高島市がいい」という声が聞けるようになってきた。しかし保育料無料化が大きく起因していると考えられる待機児童問題が発生している。この課題を解決しなければ安心して高島市で子育てしようとはならない。

「子育てするなら高島市」の実現に向けて

問

待機児童対策のため公立保育園を乳児に特化した園にしてはどうか

答

待機児童対策に対応し得る方策と考えられます。

問

安曇川地域では私立子ども園が3園、今津地域では2園あり、3〜5歳の定員には余裕がある。一方で公立の保育園も各1園あるが子ども数は減少し、各私立園で十分対応できると考えられる。そこで短期的な対応として、この二つの公立保育園を乳児に特化した園にして、待機児童対策につなげていけないか考えを問う。

答

子ども未来部長
待機児童の解消や保育士の確保等の課題に対応し得る方策の一つと考えられますので、

具体的な方策について速やかに研究してまいります。

問

これまで何度も必要性を訴えてきた在宅での育児に対する支援を今議会に追加提案されることであるが、その中身についておよび期待される効果について問う。

答

子ども未来部長
入園申し込みの多い1歳児と2歳児を対象に、子ども園等へ入園を希望せず家庭で育児される保護者に対し児童一人あたり月3万円の支援金を支給するというもの

です。令和3年度につきましては、システムの導入等に一定期間が必要なため、10月からの支給となります。効果については、入園している世帯と在宅で育児している世帯への公的援助の不均衡の是正があげられます。また低年齢児からの入園希望が減少することが見込まれ、待機児童対策につなげることが期待できます。

